

部会長巻頭言 ～コロナ禍での学会活動～

会員の皆様にはいつも部会活動にご理解、ご協力いただき、まことにありがとうございます。部会長を拝命して、1年が経過しました。1年間は一通りの仕事に慣れることで追われた感がありますが、幹事の皆様や事務局の群馬大学・野田先生とスタッフの林様、田中様のご協力で無事一通りの行事を終えることができました。厚く感謝申し上げます。

さて、コロナ禍の収束が見通せない中、皆様も学会活動や研究活動を行っておられるわけですが、コロナ禍が1年以上続き、その制約下での活動も比較的、要領をつかまれたのではないかと思います。今回の化学工学会第52回秋季大会はオンライン・オンサイト併用開催となっており、この点からもコロナ禍の制約の中、よりよい学会開催を試みようという努力が分かります。前号でも触れましたが、部会の幹事会もオンラインでの開催を行っておりますが、これまでお忙しい方が多く、出席率が悪かったのが、オンライン開催によって、出席率が上がったというメリットも生まれました。私自身の研究活動におきましては、他大学や企業の方との共同研究において、以前はほとんど使わなかったオンラインミーティングを行い、あたかも同じ研究室のメンバーのような頻度でミーティングを行っております。オンラインミーティングを使っていない時と比べると、その濃度は全く異なっております。さらに、学会やミーティング、学外でのイベントなどでの出張がなくなり、その時間を論文執筆に使えており、その点でもそれなりのメリットは感じられています。

コロナ禍の1年目は、その制約の中の「手段・方法」の模索であったと思いますが、メリット、デメリットがあるもののそれなりの活動が可能となっております。今年度はその「手段・方法」をいかに「活用」するかということが重要になっていると考えております。部会においても、昨年は十分な活動ができませんでしたが、今年度は行事担当の副部会長である慶応大・寺坂先生を中心にいろいろと検討されています。つきましては、部会員の皆様からも、ぜひご意見・ご提案を賜れば幸いです。皆様に部会から配信されているメールの発信元<scj.fpp@gmail.com>にお送りいただければ、部会事務局に届きますので、よろしく願いいたし

ます。

(部会長・桑木 賢也(岡山理科大学))

2021年度 部会幹事会報告

日時:2021年3月20日(土)12:00~13:00
場所:オンライン(化学工学会 GOING VIRTUAL システム ZA 会場)

1. 前回幹事会議事録の確認

前回幹事会の議事録内容を確認し、内容を承認した。

2. 部会長会議報告

2020年度第2回部会CT・部会長合同会議における議論について(主に部会や分科会が所有する遊休資産とその基金化について)の報告がなされた。

3. 2020年度分科会配分

事務局より、2020年度分科会配額についての説明および振込完了報告があった。

事務負担金として分科会の個別事業の収益の10%をプールして、部会会計に繰り込むことになっているが、最近はこのプール金は計上していないことが事務局から報告された。また、事務負担金はプール金とは別に計上しており、プール金がなくても部会事務局の運営には特別支障がないことも合わせて説明があった。審議の結果、プール金は無くすこととした。プール金に関しては、分科会運営細則第9条で決められているので、今後は規定の改定を行う予定である。

4. 2020年度部会・分科会活動報告

事務局より、2020年度部会・分科会の活動について報告があった。

(3月25日に本部へ提出予定)

5. 2020年度決算

事務局より、2020年度の決算報告があった。

(3月15日に本部へ提出済み)

6. 2021年度事業計画

事務局より、2021年度事業計画についての報告があった。(2月2日に本部へ提出済み)

7. 2021年度予算

事務局より、2021年度の予算について報告があった。(11月9日に本部へ提出済み)

利益のほとんどが飲食関係(特にアルコール)の行事の会計取り扱いに関して質問があった。前年度の幹事会で説明があったが、改めて調べて事務局から説明をすることとなった。

8. 部会賞について

・2020 年度各賞受賞

受賞者の紹介があった。

・募集の方針について

今年度は技術賞と動画賞の応募がなく、またフロンティア賞の受賞者が2年続けて同じグループになったことから、募集の方針について話し合った。その結果、広く募集し応募が増えるようにすることを目指すこととなった。

9. 2021 年度部会セミナーについて

次年度部会セミナーの開催方針について、三角担当幹事より説明があった。本年度と同様に年会の初日(2022年3月16日(水))に特別セッションとして開催することとした。なお、内容は従来同様に特別セッションとして開催することとし、部会賞授与式および受記念講演とする。

(事務局・野田 玲治(群馬大学))

2021 年度 幹事会役員の紹介

	氏名	所属	担当
部会長	桑木 賢也	岡山理科大学	
副部会長	寺坂 宏一	慶應義塾大学	行事
	仁志 和彦	千葉興業大学	部会賞
幹事	谷口 貴志	京都大学	国際会議 IWPI
	酒井 幹夫	東京大学	動画賞
	立元 雄治	静岡大学	ニュースレター
	木俣 光正	山形大学	シンポジウム賞
	三角 隆太	横浜国立大学	部会セミナー
	今中 照雄	神鋼環境 S	部会セミナー
	山田 真澄	千葉大学	ニュースレター
	押谷 潤	岡山理科大学	技術賞
	藤本 敏行	室蘭工業大学	フロンティア賞
	伊奈 智秀	ダイセル	若手・女性育成
企画幹事	坂倉 圭	出光興産	若手・女性育成
	秋山 聡	日清エンジ	若手・女性育成
監事	後藤 邦彰	岡山大学	
	羽多野重信	ナノサイズ	
事務局	野田 玲治	群馬大学	

粒子・流体プロセス部会賞 (奨励賞・プレゼンテーション賞)

化学工学会第52回秋季大会における粒子・流体プロセス部会関連規格のセッション「SY-52 熱物質流体工学の最前線 2021」, 「SY-53 気泡・液滴・微粒子分散工学 2021」, 「SY-54 粉体プロセスの進展 2021」, 「SY-55 ミキシング技術の最前線 2021」における発表と、部会横断型シンポジウム「ST-21 プラズマプロセッシングの新展開」における発表を対象として、シンポジウム賞(奨励賞とプレゼンテーション賞)を選考する予定です。奨励賞はエントリー制となっており、審査を希望する37歳未満の正会員の発表を対象としております。プレゼンテーション賞は、部会横断型セッションに

ついでのみエントリーとし、その他は社会人博士課程在籍者を除く学生会員による全発表を審査対象としています。今年度は、奨励賞に3名がエントリーして頂きました。また、プレゼンテーション賞の対象者は、SY-52 15名、SY-53 15名、SY-54 25名、SY-55 14名、ST-21 0名で合計69名となっています。皆さん頑張ってください。なお、この記事を書いているのは秋季大会以前ですが、このニュースレターが発行されたときには受賞者が決定されていると思われます。

(シンポジウム賞担当・木俣 光正)

粒子・流体プロセス部会賞 (フロンティア賞)

2021年度のフロンティア賞の募集を行っています。化学工学論文集、*J. Chem. Eng. Japan*など、化学工学に関連する国内外の学術雑誌や同関連の国際会議等での査読付き Proceedings に掲載された論文の中で、特にフロンティア性の高い優秀な研究論文で、本部会会員が著者になっている論文を9月30日(木)までにご推薦ください。募集要領は6月28日の部会事務局からのメールをご覧ください。

(フロンティア賞担当・藤本 敏行)

粒子・流体プロセス部会賞 (動画賞)

2021年度動画賞は、化学工学会第52回秋季大会の以下のセッションにおいて発表された内容を対象に募集しています(締切:令和3年10月8日)。

- ・SY-52 熱物質流体工学の最前線 2021
- ・SY-53 気泡・液滴・微粒子分散工学 2021
- ・SY-54 粉体プロセスの進展 2021
- ・SY-55 ミキシング技術の最前線 2021
- ・ST-21 プラズマプロセッシングの新展開

審査委員会を結成後、厳正な審査を行い、本年11月末を目途に受賞作品を決定します。本動画賞は、研究、技術、教育の各部門において授与されます。表彰式と作品鑑賞会は化学工学会第87年会時に行われる予定です。なお、受賞作品は部会HPにもリンクしますので、過去の受賞作品とあわせて会員の皆様にご覧頂ければ幸いです。

(動画賞担当・酒井 幹夫)

粒子・流体プロセス部会賞 (技術賞)

現在、2021 年度の技術賞の募集を行っております。自薦・他薦は問いません。応募締切は 11 月 19 日(金)です。

以下のホームページより募集要項、候補者推薦用紙、技術賞規程をダウンロードできます。部会会員の皆様からの多数のご応募をお待ち申し上げます。

<http://www2.scej.org/partfluid/data/hyosho/Gijutsu/gijutsu.php>

(技術賞担当・押谷 潤)

部会セミナー

2017 年度より、部会セミナーは部会総会とともに年会のセッションの一つとして開催されております。粒子・流体プロセス部会奨励賞、フロンティア賞、技術賞、動画賞の受賞講演を下記の通り行う予定です。多数の方のご参加をお待ちしております。

【令和 3 年度 部会総会・部会セミナー概要】

日時:令和 4 年度 3 月 16 日(水) 年会初日午後
場所:第 87 年会@神戸大学の粒子・流体プロセス部会関連の発表会場を予定 (オンライン or オンラインの開催方式は未定です。)

プログラム:

●部会幹事会

●部会総会

●部会セミナー

部会賞受賞記念講演

・プレゼンテーション賞(奨励賞)(選考中)

・フロンティア賞(募集中)

・技術賞(募集中)

・動画賞(選考中)

詳細が決まり次第、部会のメーリングリスト等を利用してお知らせ致します。

(部会セミナー担当・三角 隆太)

若手女性育成プロジェクト

第 9 回 若手研究者・技術者を対象とした見学講演会および交流会

本交流会は、若手研究者および技術者の育成を図るために、企業で活躍中の若手・女性技術者と直接交流することによって、男女を問わず卒業後のキャリアパスに対するイメージアップを図ることを目的としています。また、企業の若手・女性研究者相互の対話を通じて本分野の研究・開発の活性化と育成を支援する企画です。

今回は、オンラインでの見学講演会を実施します。セルロースなどの化学品メーカーである株式会社ダイセル、合成繊維や樹脂などの基礎素材メーカーである東レ株式会社、洗剤や化粧品などの化学品メーカーである花王株式会社の世界トップレベルの「モノづくり」をオンラインで見学いただきます。多くの若手/女性技術者の方のご参加をお待ちしております。

対象:若手 PD, 博士課程学生, 修士, 学部学生,

企業に入社数年の若手研究者および技術者

開催日時: 2022 年 1 月を予定, 時間は 13:00~

開催方法: Zoom によるオンライン開催

参加費:講演会 無料

・基調講演: 慶応義塾大学 藤岡 沙都子 氏

・オンライン工場見学&講演会:

株式会社ダイセル, 東レ株式会社, 花王株式会社

・講演者別フリーディスカッション:

Zoom ブレイクアウトルームを設定

詳細は決まり次第公表します。

(若手女性育成プロジェクト担当:

伊奈 智秀(ダイセル)・坂倉 圭(出光興産)

秋山 聡(日清エンジニアリング)

分科会からのお知らせ

熱物質流体工学分科会

化学工学会 第 52 回秋季大会(9/22-24)の前日に熱物質流体工学セミナー2021 を下記の通り企画しております。

<熱物質流体工学セミナー2021>

日時: 9 月 21 日(火) 14:00 - 16:30

開催形態:オンライン

[プログラム]

14:00~14:05 開会挨拶

14:05~15:05 講演 1 (45 分講演+15 分質疑)

講演者: 日出間 りり 氏

(神戸大学 大学院工学研究科 応用化学専攻)

講演題目:「複雑流体のマイクロオロジー計測」

15:05~15:20 休憩 (15 分)

15:20~16:20 講演 2 (45 分講演+15 分質疑)

講演者: 大森 健史 氏

(大阪市立大学大学院 機械物理系専攻)

講演題目:「微小スケールの物理に立脚した動的濡れの数値計算」

16:20~16:30 閉会挨拶

また、翌日の秋季大会初日には、SY-52 [粒子・流体プロセス部会シンポジウム] 熱物質流体工学の最前線 2021 を行います。20 件の口頭発表(オンライン)が行われます。

(分科会代表・谷口 貴志)

気泡・液滴・微粒子分散工学分科会

気泡・液滴・微粒子分散工学分科会の 2021 年度の行事を案内いたします。大会1日目および2日目に気泡・液滴・微粒子分散工学 2021 のセッションを企画し、23 件の講演を頂くことになっております。そのうち、2 件の展望講演が予定されており、東京大学・高木周先生から「気泡クラスターの流体力学」という題目のご講演および鹿児島大学・甲斐敬美先生から「なぜ微粉粒子は流動触媒層の触媒としてふさわしいのか？」という題目の講演をしていただきます。また、秋季大会会期中の 9 月 22 日に例年開催されている(第 23 回)気液固分散工学サロンをオンラインにて開催します。今年度は名古屋工業大学・岩田修一教授より「レオロジーを応用した気泡除去」と題したご講演をいただきます。ご都合よろしければ、是非、セッションおよびサロンにご参加ください。

(分科会代表・酒井 幹夫)

粉体プロセス分科会

粉体プロセス分科会では今年度の共催行事として、「第 58 回粉体に関する討論会」が 9 月 6 日～8 日にオンラインで開催されました。本来であれば北海道北見市の北見工業大学とオンラインのハイブリッド開催の予定でしたが、COVID-19 の影響でオンラインのみの開催となりました。オンライン開催ではありましたが積極的に意見交換が行われ、活発な討論会になったと思われまます。また、協賛行事として、11 月 30 日に「粉体の機械的単位操作に関する参加型講演会」(通算第 8 回)がオンライン形式で行われる予定です。

当分科会では、粉体材料、粉体プロセスに関するシンポジウムに積極的に共催・協賛していきたいと考えております。共催・協賛の依頼は、分科会代表の木俣(kimata@yz.yamagata-u.ac.jp)までお寄せください。

(分科会代表・木俣 光正, 藤本 敏行)

流動層分科会

第 27 回流動化・粒子プロセッシングシンポジウムが、12 月 16 日、17 日にオンラインで、新潟大学の清水忠明先生を実行委員長として開催されます。大会の HP は以下です。

<http://tshimizu.eng.niigata-u.ac.jp/fb27/fb27.htm>
発表申込期日が 11 月 26 日(金)となっています。皆様のお申し込みをお待ちしております。

(分科会代表・立元 雄治)

ミキシング技術分科会

昨年度、延期となった夏期セミナーは、九州地区での対面式開催を模索しましたが、残念ながら、9 月 14 日にオンライン方式で下記のように開催されました。

令和 3 年度ミキシング技術分科会夏期セミナー
「ミキシング技術とシミュレーション技術の進展」

1. 「攪拌性能の CFD 予測と検証」 呉工業高等専門学校 高田一貴 氏
2. 「二軸スクリュ押出機の CAE 技術—粒子法シミュレーションと AI 技術の活用—」 (株)日本製鋼所 福澤洋平 氏
3. 「企業技術者としての攪拌研究—テーマ設定と展開—」 元(株)ダイセル 亀井 登 氏
4. 「Open-FOAM を用いた攪拌槽内混相流解析」 横浜国立大学 高木洋平 氏
5. 「バイオプロセスに適用する攪拌設計の考え方と実例」 アサヒクオリティアンドイノベーションズ(株) 川村 公人 氏

6. 「流動層を用いた高効率連続再生式 PM 除去装置の開発に関する研究」 九州大学 山本剛 氏

6 人の講師による講演は CFD, 数値シミュレーションが、実際の装置、プロセス開発に結びついた実例を紹介した示唆に富んだものでした。また、今回はコロナ禍の特別な取り扱いとして、非会員も含め参加費を無料としました。参加者の数は 100 名を上回り、本部会、本分科会を広く紹介する上でも意味あるものだった。

ミキシングに関する国際会議 ISMIP10(10th International Symposium on Mixing in Industrial Processes)が神戸大学で 11 月 29 日～12 月 2 日にハイブリッド方式で開催予定である。例年開催の東日本、関西・東海、九州・中国の 3 地区でのミキシング技術サロンは、対面式開催を模索しながら、12 月、1 月の開催を目指し計画を進めている。

(分科会代表・仁志 和彦)

部会への入会方法

■化学工学会の個人会員の方は、化学工学会 HP(<http://www.scej.org/>)の「各種申込>部会入会」より、お申し込み下さい。eメールなどの変更も、化学工学会HPで行えます。

■化学工学会の会員(法人・個人)でない法人あるいは個人の方で、本部会の法人特別会員、特別個人会員入会をご希望の方は、下記の粒子・流体プロセス部会事務局までご連絡下さい。

■分科会への入退会は、部会事務局へご連絡下さい。

■本部会の法人特別会員，特別個人会員の方で、
eメール等の変更は事務局までお知らせ下さい。

■詳しくは

<http://www2.scej.org/partluid/nyukai.php> を
ご覧ください。

Phone/Fax:(092)802-2756

E-mail:scej.fpp+membership@gmail.com

部会ニュースレター編集後記

新型コロナウイルスの蔓延で、制約がある中でも
工夫されて活動されており、感染対策と両立しな
がら学会活動を企画・運営されておられる皆様
方には、深く感謝申し上げます。また、ニュースレ
ターにご執筆いただいた皆様、ご多用の中ありが
とうございました。このニュースレターが部会活動
の情報提供に寄与できましたら幸いです。

(ニュースレター担当)